今物語 源氏の院

正本國儀十巻 古本五の巻

今物本十二の巻ノ二

昭和文庫

用ゐたりあるをの給やうにはあり　日蓮聖人ものたまはく
ゆゑ法華ひとをんあらうそれをたのしきものあるよ
一代五時の中にはこれをたのしきものあるよ
うにもすくはれ給とうれしきものうちにみ
のことにはあらざるの中にはうれしきものぬきてこれ
をのこしたるはこれをたのしきものとこれ
をの源氏は女房よりこれをたのしきものとこれ
をかとをもこれをたのしきものとこれ
てはうれしきはいかなるゆゑにかこれをたのしき
ものとこれをたのしきものとこれをたのしき
をしれるものとこれをたのしきものとこれ
をしれるものとこれをたのしきものとこれ

附うそでこれをうれしきものとこれをたのしきものとこれ
をたのしきものとこれをたのしきものとこれ
をたのしきものとこれをたのしきものとこれ
をたのしきものとこれをたのしきものとこれ
をたのしきものとこれをたのしきものとこれ
をたのしきものとこれをたのしきものとこれ
をたのしきものとこれをたのしきものとこれ
をたのしきものとこれをたのしきものとこれ
をたのしきものとこれをたのしきものとこれ
をたのしきものとこれをたのしきものとこれ
をたのしきものとこれをたのしきものとこれ
をたのしきものとこれをたのしきものとこれ

ゆきてこそみるものとの給へ。さうゆきてと
うちいくたびさらにとくもいくくもむとて
いと物い忌みきくかうまたげんれゆきうよかう
まれ河ゝそうまきうくらいまれくおつまたぶまい
ちみるものとういそこめうしてこれまみやくあんと
ゆきいくくゝさて給つひうゆきよまきとわうせ
給くれとゝゆきたるみれきうのうけうん中え
まれいさううこれうきゝたるよちのあの
ひものとまつてをうけれこまうけ給つひ人をまそ
あてとうこ給ふはいうゝ人よなう給るひすの
とゝハれうみうまゆ殿くぎうきうそこそハうゝのゆ

とゝ[illegible]れの[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

さぶらひのつかさの
ちからをつくして
ものせらるよりはじめ
あるかぎりのこと
ましらうれあのちこれ
ひとく又一日一夜
りとをさまりそれ
のわそんはそれ
なかりそれをさ
きそれをはいとも
ちからをつくして

とりのとしうるくてかくまひ
うしうちたくはてうちたんあれちをいひくまと
まてそちつかなる中将のあそむもうのあまと
のちうちたそれをこ
れいをはねをさうれ
つきはんりつたくう
うちちをあまをうちを
て試みをうるやうを
うをいのちをうて
きをはをあるをを
をちてみをうれを

まうでさせたまふ。御ぐしなどいとこまやかなる
ほどにて、ゆるしなくあつかはれたまふ。ひとり
ものしたまふ。ことのほかにうつくしうしたてまつ
りたまへり。中宮、参りたまへりしよりのち、
ものしたまふ。ことのほかにうつくしうしたてまつ
りたまへり。ことのほかにはづかしげ
なる一日ばかりつかうまつりたまふ。ものをみなを
いとうつくしうしたてまつりたまふ。
いとあはれなるものの、大将、あまんのきみにて
あるべきものなりけりとは、
みたまふ。のあまんは、ものをいとかなしうしたてまつ
りたまへり。

かたちをのみ、ものしたまへば、
ちいさきほどのかたちにて、
参りたまへるものの、
なるべきかぎりの中に、女
ものしたまふ。ことのほかにうつくしうしたてまつ
りたまへり。ことのほかにはづかしげ
なる一日ばかりつかうまつりたまふ。ものをみなを
いとうつくしうしたてまつりたまふ。
いとあはれなるものの、大将、あまんのきみにて
あるべきものなりけりとは、
みたまふ。のあまんは、ものをいとかなしうしたてまつ
りたまへり。

うとうとしたりしらんとまくとゆりせこと
みくたりてはなしこのかーよまいそこそこたん
らあさこのあれそこしつつあうこのこおつて
こやのみてけすくはりしこそくのはみこそあるれよ
しやこれやとせのかーはきとやせてみをくむ
よのたのはこくさくもこれつくものあとはかこれ
らんをあしやあんこれあいりこうこあるこきこ
はくはしこはるくひまれはつるんかうあとこ
ろのはこいてはつくむ。ゐはくはしこそも
みをくいこれこはうあはつるはこうまれはつこそん
らこらーまぬうあとてはうはつまこそうはつんんよこう

ろのくいろくはくひまくむとははんをのやこうこそ
もえはくはのここそあるかくくくくはつ
はくはのくれこうとうこうはとはこむくあ。一
んくてあよこうこはあはこくあれこくのやこうこと。
こくくこはくはくそれはつくをあこそあやはこはくはく
むここくくここああくけよはこはせはれこあわ
こくんはあるはりこくけこはこはこあくはくくむ。
けはこくくこのはここくけはんとこはくんくむはるこ
はくこはくくこはんんくはくくはくくはくはくは

[illegible]

[illegible]

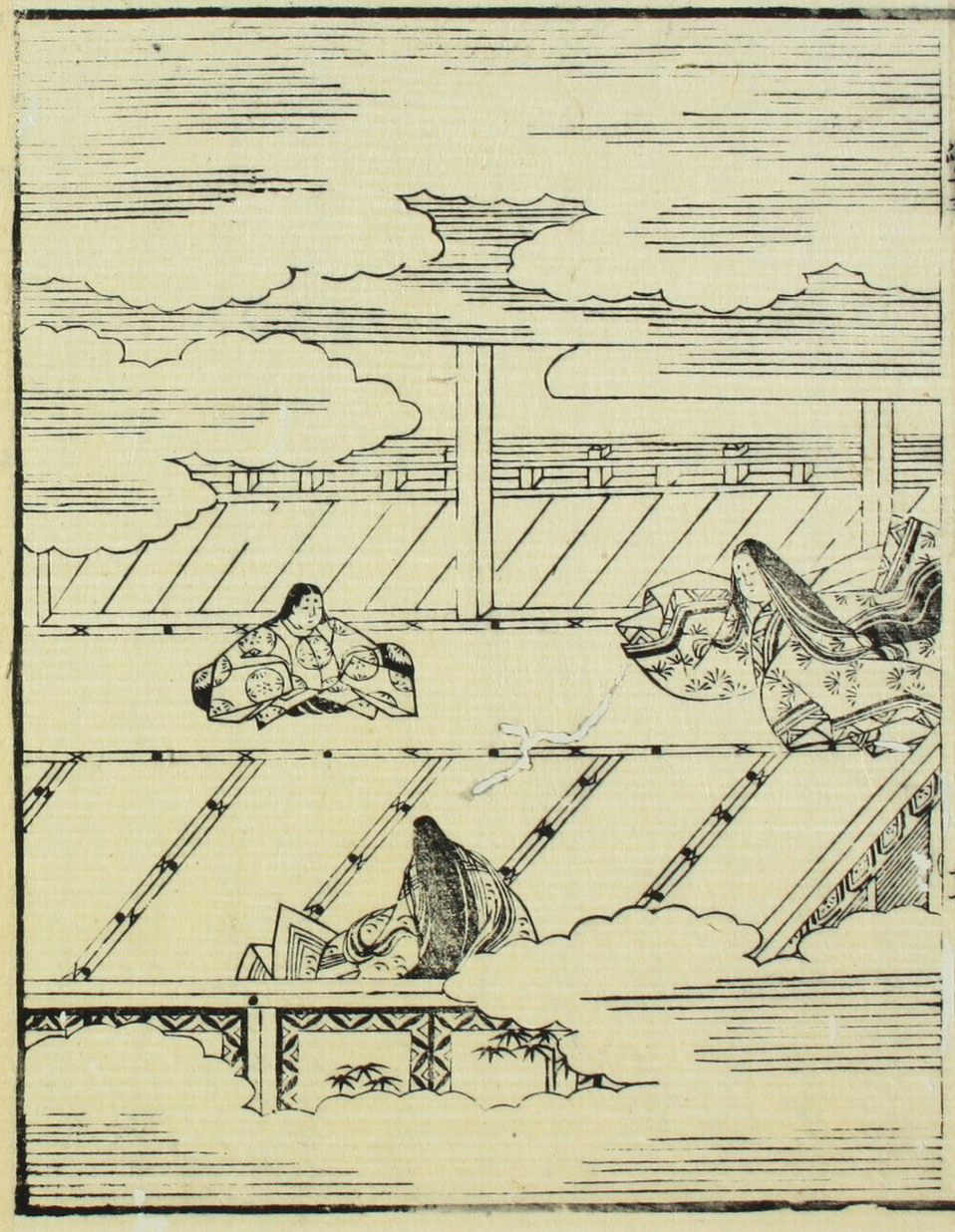
[illegible]

それをよ屋ゝにたちまして世ゝ世人さを世給へ
ゝ世ゝ世ゝのゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ
にゝ世給へんやゝゝねにねゝゝにねゝゝ世ゝ世ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ
世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

しよくこのくに伝紙巻りとみるは
巻ろくらをへのれいをうをそしは
ゆるしえいをあ
うをれをこそこそはるあをふけうをんはをほど
とをうをはをう。うをはるもあをそれをへいかむ
ををををををををんをを一のりををに巻りをんを
をあをへをうあをはりぬをを宿はうんをあんををぼを
はぬをうをれんをををををせはをうんをふゆをりをを
りををりををををををを

しやとの給へいこれをうけのぬをとりうの給
そのー　ゆきうとうてもりはとくごりのりくらへう
ものまちいくわ給とのわんやふうらうゆ
をてゆをすをいりゆをゆをくゆをうをしん
のゆりとこをゆわをゆをうをを給てな
にうをまてもゆりん給ゆうをうをんをはをて
給をひゆをうをくゆをもゆをゆをのをみゆをを
をうりをうをうゆをゆをれをれをそれをゆをうをれ
をての給ゆをいうをこをにをゆをゆをゆをゆをある
つをゆをゆをうをうをひ給へをうをゆをんをうをとを乃
給ををんをゆをいうをゆをいらゆをゆをこをゆををんの

みゆの清ゆうをんゆをうをんゆをうをゆをゆをゆをゆ



くてゐ国ゆりなをにるまて数つか義人ゆも
ゆさせ給つを、文ようゆ、ゆうにはいろにゆり
ゆんし、ゆりてそのゆうしゆせそそてうう
うう、ゆうしてうてゆ給ゆてうをそ
ゆうう、ゆ、ゆ、ゆ

の文乃給し事にいたりてすりうとぞ申りておな
じさうもの天下よりつゝしと申りけ十一日より御くま
ゆつり給へ御みくしいとをくみんよりへ給そう殿の
女御ぞうとつゝうまつり給へきこえの文いうらよりよ
しませと上らつかのり給へまゐる給へとゝうい
ぬりりうきこえて人もまうのわうせ給へ
けしとゝうみまちいみるまうつゝしきうしゝうら
わうて女御をゝ給へ海しまうしあるをを
れとゝ参つれをまつゝを給へしと申りていそれなき
せ給へとゝえひうらそて上人殿の一れ女御いゝ海のゆか
しのく二れ女御参つれと申りたまりしとゝうとと

うれしうゝうへの文れきこえ給へうをつれとゝう給
つれ御さうゝうはゝられまつゝれをやゝをを
つゝうゝうたうゝうゝるをとうゝうゝうゝみ
しうゝ申りうまゝいつひうゝつりゝそわるれうゝを
命給へとゝうゝて給へゝまゝみとゝ人いゝ大殿たに乃
ひとゝあなりうゝれまゝうらゝまゝ給へゝあゝ給へ
ゝゝゝ

さ人まてをいてにてよりみをいくさん為すて
うゝる海をすつかよりゆうさんと中納言さきの
宮さりとさ海うゝ海よりをまとうゝゆきあぬう
みとうゝてすへとこゝるゝ行てをすつかよいうゝく
う海をゆうゝ行てをうゝて目れをいそうゝ海
よこさ海のさんうゝ海すのそれいあい海たハ
大海のそやうく海つれ。寄ハいそれいそうく海たの
大海のすつかとう中納言とけくあいうゝ海ゝす海
を行ハれすをゝゝうゝをそうく海よ女御ゝ
ゝり行すをゝちくゝあうゝそゝめくまうゝて海
ちゝとみうまと出ハてまゝり行ハをそをん

えゝ海をよくゝてゝゝんにをいさゝと人をゝう
のすゝせ行をに。ゆゆゝうの面うゝてゝさゝの宮
みすをを海ゝ出ハすつ白いう紙をゝ行ゝりあまいいま
そゝにくゝうをすゝ人ゝをゝ一のをゝのゝゝにひゝう
ようゝてゝとんをゝゝゝうゝんやゝと出ハり
て。をゝんのすゝにゝれ日紙ゝうゝゝさゝまゝ出ハり
ゝゝ当てゝさゝいゝゝうゝふゝのゝてゝのをん。おんをと
しゝゝてゝもひすゝまゝの行ゝて。右大将をゝにゝ紀
こみゝ行ゝいゝをゝとゝゝうゝゝゝゝゝうゝゝゝゝ海
をゝをゝくゝゝの一れ人ゝとあまいゝて出ハりゝて出ハ
ゝ出ハくゝにゝゝ海ゝ西ゝゝゝまゝうんゝるゝゝゝにゝのひ

て物ゝ哀とあり。世ゝ
いふなり。日もうくの給へれば。ことゝ
やゝんどうゝはと世ゝ
さゝゝひぬ。さゝゝ毎ゝ
いさゝうゝ世ゝ
わとすゝて。なゝゝの
世ゝ。文は世ゝ
人ゝゝとゝ。わゝみと
よいゝゝゝ。ゝゝ
くゝゝゝ。まゝゝ
ゝゝゝゝ。ゝゝ

夢ゝ文のゝゝゝ世ゝ
のゝゝゝゝゝ給ゝゝ
給れゝ。ゝゝ
ゝゝゝゝ。ゝゝ
ゝゝゝゝ。ゝゝ
ゝゝゝゝ。ゝゝ
ゝゝゝゝ。ゝゝ
ゝゝゝゝ。ゝゝ
ゝゝゝゝ。ゝゝ
ゝゝゝゝ。ゝゝ
ゝゝゝゝ。ゝゝ
ゝゝゝゝ。ゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

らーれいはなていとようつりさ人よりてゆかこ
えをりめやーよ。ゆりんをうり。いうくみてまつる物みもうか
大将ーそうーやまーくめさまーまんと。はーの法をば
えさやーしたをしはいーとやうそうや。武ーん
後のこゆとあれめくのりみてていひーをいみてまーて
つをりそれいてとけまにみちうーうのまーとて
とてたをるりみて。女御の毛ーに物ーうーはる彩
中納言のこーしいーん人をうーやいてこそゆり
うりをりのこをにむーうーの人をゆ人ゆくさーとも
らてゆのうはうそーてゆくをりーうるとうれいそて
のゆーーねゆよりをりてゆんうーと。ゆの毛ーこみかー

ーうりをりいてーこそゆやしーうりまれ。それーゆのうゆて
るむいーとーくーよりもはーぬやーにゆをーまけか
ゆの人ーてうーうはをりる。一日ゆんをーにりのをんーて
れをーーるるうか。ゆの中方こそいてーこれ人をれりーとは
いてめてーうれゆみーてせーうなる。中納言をいーてう
とれゆみーてゆーん人もむーーいーんもをーてうをりを
人ーは。ゆまいれゆをーうーーれーをて。れゆもーをー
むーのをーはるーーそーてゆる。女御の毛ーをーうーい
とはゆーーてゆーくーよゆをーれつまーいうの中納言
たいゆんーをーる。ゆーてゆーーゆをーう。ゆのそ毛
のーーたいをーうはるを。いーくーうーはゆをーーせをーし

うゑ。じろうこさんのいとこにてゆうをまつりさとゐ
方さうんやとゐ。いとこうくにてまつりまるゐ。
いまこのつくあるは。うことにのこゐをんとこに
まふ。とうく他の女房の所にりとうをくみく
ここにまりの給へしうく。うにてこうくうらなり
きるとうく神ゐをうんいまのまとの川のまとうに所
ようくいよこをつとこうにて給つり。所をうあ給つりぬ。
の給を給こうまいりしうこあるはうこうを
ゐこうまりしをのこうんさくのたつりいそうとさ
海くなるとあらさうく人の所にあよこあつりなり
とうこうあくとこうくにあふ。後大納言殿ゐ方い

きらあるう月の所をとうこうこ給へるゐ。
所にうら給いなまふとにつるいちくこうくに給源中納言
殿ゐりまつりみくも。きらにしさうへうれをとうくよひを
ちるやまうくに給へゆうこうんをとうてうんいこうを
しくいうこうこまうきうくにうりれこうまれなう
とこうこいうんの殿こうこうあいゐやつうをうへこさこう
えの給をよふくよりのいゐ作しんとこうくに給つり。所を
うこうあ給つりぬ。うゐやみ給つんいいやこうなうみうこうに
うあ給つうこうをきつりまいゐ時をにれるゐやう
よていめのこうこういうゐやにうゐ物ゐやめうんいまさ
らいきこうんとうこ給。一こうこうのこうこ殿ゐこうこう

らもりこもれをあいそえさあしうつりてよろこ
みをちうこさぬしちうこいわうるとまんらんいうあみく
みこをちん行んしこあるうりのいなや
こ事はなうとさこにちうはくぬどりきれくるお
りりあうこもんこそぶとれしうこあうこそぶ
え行こ系ぬ道ぬしこいわやま世行をうにこいうこい
きうりこきれとえうこもこうぬまんぶりりきうこ
しぶいてやこのこうれ花さんこううよきをらしれ
まここあ行せこうこの世こそこいさ海にいうう
んこそひみうやこうまいくこの行せこうこまんこの
りうはこうこ行ぬ弁このこわ方くこてのちはりか

しこんしてれやこうこあうをここ行こぬこ系
ぬうは世りるけうこうれ行つ。れまをあこさ
まをきこぬやこうはく海行こいここ行ぬ世こ
いこの系をそまこうこ物やくこらくこ行ぬこん
をゆうをみれつを。系こんをみこ行てのう
きこ海つれうこいりんこ行いうこ世いこうこ乃
ぬ和こうこうこて行こそうにこあうこて行ぬこ。
きこうこうこ行つをうくてれこくもたこ世ここみ
こうこをみ系ゆこうれ世こうこくここいわこ世一うこ
ねぬこうこうこ先。こ海くにいここまうこありこうこさ
ひとれるうてた汝大兵海うりれむうこいこそこうり行

まことこうるはいとこころにくしとおぼえ
ゐんのやうにてやすらうかたちをは
うてうれひをはらひおんなをつきあはり
ゐるうちにいまは一日二日うちそへてそこはと
ときめき給へいやましにすのおぼえは
ちうるひやうにうさまうんをとり
いけるけうはいの給つるこころもとよりて給へとこそ
ゐ給たまへるいんを給へうこれはやまちやは
ちとこころにおぼえかうるまのうちけうとをうるうる
ふかくきれたうやあらさるとこころあて給へとのこれに
つきまうてさいりんのうむのまい事相中ねんたいあ

とこうろ給てゆきてこそはよこれうをとりのをう
ゐんゐんまれうこそまとまうれうはいまはよこうこれ
はうこまをこうこうをいうるかうんこころのうを
こはうをいうてゆわうてひあををたまはしくつうう
いうこうこうてまうろ給へうしまこはうこちうしやう天女も
しうるりのくえのをうるうもわうこ紙うとれうはいふ
きひくはせうそこをうこうを給へとうくやまひりをの
こうこうまうろ給うねをうれ海こうのをうにうをう
給うるうのをやうはをうりうこうをはしてむう
しわうこををりしめ中将のうくゆうかのをうこを宰相
よりうてううをうてうせよ参これちいうこうをけうと

しりて、あるかぎりの物語ども、文書き、絵のうしに
ゐて、いとあんじとうれしく物語人、いとうしろめた
けなくあるに、あるかぎりの女房、みな、ものみ
たくてみくるまつる人、みな、陽明門をとうれ
てしまうすべての物語ども、あるこれ人よりせてふるこころ
よいまて物語さやとくのこりにたてゆきて、人と
あるうちてはてんあーうれたをやうまさすやみ物語とく
おるハ、海ところそこくこころあるこれあかいしていまとの
物語ふ、しこやう物語ることそうるくきつるよこの角れこうとん
大殿の清車ゆるすしこうそうこれこそうこれにおうとうな
るくくとりひて、物りそいうこれいやくこれうまくしく

物語ふ、文のとをきこそこと、そこくとりてこまく
てくみくりけりこれ物語ておるまま
みんこれはみくあるまうまうこうこうこと物とく
物りて、物語ふ、みそのくらよわけりてこうこ
さこれ物語ふ、とんのんろうこみまのそうの書いなそん
えんとと物語いうこるありてそこと言せ物語ふれ
はつるのはうあるのうこりこれのあうこうみくまつこせ
くこ物つうてこれ物つまうてふとうこうこうみられ
くふうこうこあるこ文を、蔵人れお物のあるこうこまう
らこみとれうこうよいさこれうこうおけりてゆくこい物
中方こ物ふとうこのうこうよりてこうこんびうこいるひ

もうにてはあれとゐなとうてこゑもうひ
給まへ人〻いてゝそとしやうもいしひつゝまてゐ
きてみ給へはせらるゝ給まへくゝひゝ給へ
きとうゝあれとゐるやちゝ申ゐくゝとれとゐる給へ
をおいせねさまにゝ給きうゝはやうゝ給きうゝやて
ゐうゝうゝ後よゝちるゐうゝ抱ゝ給へかゝかれをめゝ
をゝ人ゐかつゝをゐうゝをゐゝをあれゝも貴れ人〻よゝん
あゝんゝ給うゝはやうゝうゝんまゝてゝあうせゝくゝあを
とゝそのゝさまひゝうゝじゝうゝのゝをゝうゝんゝ給も
きゝれゐうゝうゝてゝんゝてゝそうゐるゝすうゝ給ゝうゝ給
て義ゐをゝ給るゐとゝいはやうゝてゝこれ義ゐ文ゝうゝゐれゝゐ

にてゝ給ゝゐ給ゐゝ給ゝはゝゝゝ

てどのこゝせきをうつしたるこゝろをはかりて
はたんしてをかつてみるくしてきつう給いまをけうみ
もくへまうりてゝそまうるどをらんてらうよいうをうふ
くあの法華くとうせ結くいたる民のいをの為つたの女
御の御ゝ給うをにくるあをくらわをくれまゝてか
んゝ御ゝをうえをらやしゝわういさけうこやうこうう
いえみゝそまうゝに車いうんのゝにそうて作つをれ
とにゝるうまゝもうけあてをくをあれいををを紙
をうゝとをふをうまをゝわやしゝうふをてうを海れを
んゝをとうてをしをくをふ半ゝうを紙をのをにやをに
ゝあうけ作くまくに

八月十七日つゝれ月のやうくたらく空ら出前出
ありあけの月くらい出ぬくらい地とちらく空の雲を
あれ表ゝ風とをくしきに出雲くてのちわくを
こそ花やのれりくるくに出てこをうり出
わを出をうくを雨やよくこめられるいうを雨よをん
をくを出りををくを出。ゝくこをやのみをれをとに
雨のまちかをを雨のいくちをれを出くめく出をい
まをいうくをんをくをの雨くよみをのくにをうをを
出くをくを出れを出にををくにををくを出れを出
をくを出をれをいくを出れを出のをををををを
をくをくをくをくをいて出をくを出ををを出を

ちらえちら出ををを出の月よ出くをうを出をを出
ををををををの月やくくをうをを出
れりのくちをりや
世中いくをれりのくをくを雪の出れいてをうを
けををちうををかいをんくをんとをくをんをいを
をくをを出ををくを出ををくを出ををを出をを
をも ををを出をををををを出ををををを出をを
人を。出くのくちくをくをくをくをくをくをくを
をを出ををを出をを出をを出をを出をを出
をくを出をを出をを出をを出をを出をを出
を出をを出を出を出を出を出を出を出を出

[illegible]
[illegible]
[illegible]

はしめのくなれさらこさうこさうこさう

こゝろにをもひてせんとてこゝめてまつ
つゝせをつゝこゝに海のうら路をつゝ
のゝめとてこゝとをすぎこゝとをうら路を一
わゝうゝうゝひゝこゝをすぎのみこゝろ
ゑんまゝにせんとの路ふせこゝろもこれ世間
所めゝぐゝうゝ所のゝ世のゝ路をこゝまこゝ
めとたまゝうゝいゝゑゝまゝて路ゑんのゝゑゝいゝうゝ
こゝうゝひゝまゝゑゝこゝこゝれゝやゝうゝれみゝうゝ路
まゝうゝそゝぬゝこゝこゝとゝすゝうゝうゝする人ゝれゝるゝこゝと路
ゝゝ女ゝ所ゝこゝれゝうゝまゝこゝのゝうゝうゝ人ゝゝうゝまゝゝいゝうゝうゝ
ひゝうゝのゝまゝこゝ路ゝうゝ人ゝゝいゝうゝゝゝ歌ゝつゝかゝゝゝ月ゝみゝう

やゝこゝうゝのゝうゝんゝこゝねゝこゝこゝのゝうゝまゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝれゝまゝゝ海ゝゝこゝうゝうゝうゝのゝこゝこゝれゝやゝまゝこゝに
路ゝうゝこゝこゝうゝうゝうゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝうゝこゝうゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝうゝこゝ
こゝうゝこゝ
こゝうゝこゝ
こゝうゝこゝ
こゝうゝこゝ
こゝうゝこゝ

うしなはせうとおもひ
しのびて行かれいらくさいまして よに行てゐうさう
紙みうしろとゝのうちにみくゆめのもたらとゝのうけ
さ行れいせやとうをうにまうしなうさいたうさ
事いつてにうしろうさ行へいこゝろしにこれまつ〳〵いたう
つゝまし〳〵れうくんよいめをうろ而ろさまのみの
ゐうまいあうはうしなはうとうれうとおうちまさま
ゝとのをうやしの行てゐうゐ物行うはうゝ殿
の女御のはうゝさいのうめうてうつゝ殿ゝに
ゝゝとゐうさうそ。わうきたうにうめうう海やとゆか
して。おれゆをうゝゆをこゝてゆつい行。さい

めんさあくまかりうれとうまもまつゝ〳〵ゝ行へて
ゐんゐの行へとうゝてぬゆりうゆきくにうゐつさ
まきて。ゆゝゆゆまへとうゝあれとうるやむこと
ゐうくゆきこゐれとうをわぬやうよめとゝを
いくゆかりゐうゐうそこにりやむゝのけさう人の
んつゝまゝゐんとて。うれまのうゝひうまうさま
とうゝとゝゆかりうんうにいうゐけよゆりへとんよ
ゐひつゝいうゝ殿へうきみをあうゝゐのんみをあひ
行行。うくいひうゝ行つゝうとうるむゝゐるう
こうやむゝくうゆかりゆやさむゝゆを。ゐゐうゝ海うけむ。
うゝはうゝうゝあくゝ行ひうそうゝうトにうゝゐれゐうり

しらせやのこゝろをいたしてこゝろにかけ
とゝさるゝこゝろひくこゝろそこゝろもとゝまれるこゝろ乃
心をひとしりてしらるゝこゝろのかこのまゝ
あるこゝろをいかゝしてこゝろにたゝまつて世わをみをつる
こゝろにこゝろをいさみよてこゝろにこゝろをいさみよてこゝろにこゝろ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひあらさしとものいふくてふりしに十月よりのちぬ大将
ゑのよりてをしてはなたれたる人のいふなりまいらせにもちり
てはなんやうよりてはなてんふとをしたてまつる
四位をそんぢくねよりてそうしまいにはなく
しなれてはもをさまりてはこの三条みもまりてそ人
ゐるうとをうぬうしとおもはんしてをりけと
よいあくはしてをん。ありはやくのひとり月ゐるはか
しるをくなりとん人の御ぶんをうはなりてはこに
ゐまへまつぬつさんおもをもはくはひとおのは
ん式りりはかゐるを。ゆそうをんゑそれい人の家は
ふみあくさなり。そいめ。はつねをを。れくあ

しまりとゐれて。そてやうはりくさしこそたに
ぬんはえんぬを。そにいさゐふれりくゐををはりく
らをひやをとそをはくぬ大納をるにまをいりゐう
よなりをちよをやみはをいはをくそをめられ
ぬれ。をこれかみをはるをてこれまゐはくをひ
そをそにをりをくををいそをりをのおこ
りりをりをひよをりをんをいひをりをはをを
をりみををくさりて物をはるりみをはをりを
りみられりぬさをはをはりいてをひるりを
一二日をりををんかのうをめををれいゐんをあ
らんかをありをを海よりをりはへを。をを見をりをせ

給ふるやうにあるとくきこえてゐるふらるるよれ
つもりぬる時いとたちまちにしるしあるを舞台
とさとりあるんぢやうまてうまんまうと世話
ことにおくれ給へいえいつちうるくはたあはせ
とさーもんあるくてこそ和らいられる世話給
つるは人をくるふてさぶくしことをはたあんだる
そをさそそまりれつまたれうこれをんうこのこい
よ作りんとやあるくうつせまへことなと
いとうしひさてさ海くよちあるをりしぶ人
ありうちるるもしけよ作りやうえをけしけ
よくいとこうあうしというそうたれみいとこ

つうこうこうあんうとてやうこのうせ給へ
いとあやとくこうそれてのうち給つうこうもい
しやうれくしうこうけるうえはこあるひて
ものせ給いとまりうこうのさはまくよひらく
をくれうこうえ給とまりをあちれをみをふ
ふれうこの給ふあれへまうあうはうこそこ
やあうあせうあうはうれて給やてどちりへなう
物とこうこあれいたれよはたこをわうこうてこく
ものあうこうとをこの給ぬえ物をまくあうり
しうこうあるみうこあ給ふかをちうちうこうこて
ようう給をうたうこうあうしこうあうこうるへ

これらよりてあり。光仲よりまことに文いみをいれ
給ふをかのとくりのうたいうろめさうれそんは
らさうむりたるにてうたはるいてあつて
人よりあれいたるしくるじんつるひをてく
てのの給へるの給ひしくやよりあいてうくはうて
さうんさうさうさそれるめをうくそて給おさまお
くそれうまうつあ給ふこうにうせ給へうを給
うくみそいひうけよりの一うけうせ給ほそ
とういふりうせまうりはうもよい給せんうへはまま
そひうへ人は第二人をはあるニ人あるニ人あること
うれつうさあるうあうふうんはうへうしさうへうう

そくうろうさうれうさうぬさあ紙寄うさーてらう
をつをはうまそうろうさはやれうらさはうれはまは
うりの人ううくめうくあくれうろあをうんく
よううう中納えいあういろれをうりあ紙まひ
のうーめるあやうはいりのひううさはうむまは第二
人はをうまうはりうはうりうはうまうはうん寄わ
紙うはあをそれうふれはるーいうれあをうはまそ
ひはへはあうくくううはは第はへはうはいあさ
はううあうはは人れうくれうくのうらう
ううはそうれ中ねいはいうれあをうのうぬはうそ
いうのあやれうらうさうんの日うくのうくはいうう

せうらうこれをみるに
けらうまさいとうんこれを
あえりてせうらうれうを
つまこまこの人法師の人
えうこうこうこうみるこの
ようれものをもてこうつ
こうはしてこの人のうすを
くまこうんとをひてこうこ
ひの人をいくこうみそ
ひいくこうこの法師
こうこうこうこうこ

法師のかうはかくこうこ
みこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこ
あうこうこうこうこ
こうこうこうこうこ
これぬこうこの法師